

# 季節のおたより

2020年 11月 冬号 年5回発行・No.15

深まりゆく秋、冬もすぐそこまで来ているのを感じます。子どもたちや友人に向けて少しずつプレゼントを用意するのが楽しくなる季節になりました。お家でできる手仕事キットや新商品、そして来年の干支となる牛の親子をご紹介します。日々、何かと忙しく過ぎていきますが、心豊かに手仕事に向かう時間をぜひお楽しみください。

## 「クリスマスのおしゃべり」

### 「てくてくサンタ」



「てくてくサンタ」16 cm  
※作り方テキスト付  
価格：1,530円(税別)



「クリスマスのおしゃべり」  
(10 cm・3体)  
価格：2,100円(税別)

### 「赤い毛糸のトムテ」



「赤い毛糸のトムテ」  
価格：1,070円(税別)

### 「牛の親子」

2021年は「丑年」です。  
「ウォルドルフの動物たち」から、  
愛らしい牛の親子を作ってみませんか？



「牛の親子」価格：2,660円(税別)



型紙と作り方は「ウォルドルフの動物たち」をご覧ください。  
「ウォルドルフの動物たち」価格：1,500円(税別)

もうすぐクリスマス！  
おすすめの手作りのキット  
のご紹介です。  
ちくちくと手を動かして  
大切な方への  
プレゼントを準備する  
そんな楽しみを  
心を込めて届けします。



「ふたごの天使」  
(10 cm・2体)  
価格：1,970円(税別)

### 新発売「ミラベルの服」

～C体(40 cm)のワンピース～

人形と向き合ってお世話できる、前ボタンのワンピースです。ブルーとピンクで新発売。ポケットは、くるみの赤ちゃんが丁度入る大きさです。



(11月11日発売)

「ミラベルの服」価格：3,200円(税別)

### 「手作りフェルトの天使」

(18 cm)

価格：1,800円(税別)

### 「手作りの服キットC体(40 cm)用」 ～オーガニックコットンで作る シンプルワンピース～

オーガニックコットン布と作り方がセットになっているキットです。手縫いで、すぐに作り始めることができます。新しいお洋服作りを楽しんでください。(11月11日発売)

「手作り服キットC体用」価格：2,000円(税別)



### 「指人形 虹の子」

パステルカラーに染まったフェルトで作る虹の子が2体出来ます。(10 cm)  
価格：1,970円(税別)

### ウォルドルフ人形に会いに行こう！ 作品展のご案内

ウォルドルフ人形展～絵本の中から～ 四国巡回展

11月14日(土)～23日(月・祝) ※17日～19日は休館日  
高知子供の図書館内 あとりえほん (10:00～17:00)  
(高知市丸の内 1-1-10)

森の中へ & ばたぼん巡回展

11月30日(月)～12月22日(火) ※日・水・第4木は定休日  
こっしえるん。かふえ (10:00～16:00)  
(鯖江市水落町 2-25-28 鯖江市図書館文化の館内)

クリスマス★「くだものをもった女の子」ウォルドルフ人形とスケッチ展  
12月4日(金)～6日(日) 10:00～17:00  
SMILEハウス(西脇市 784)

一般社団法人 スウェーデンひつじの詩舎 スペース ペレのあたらしいふく  
〒244-0001 横浜市戸塚区鳥が丘 15-2

Tel:045-881-6900 Fax:045-881-6665



\*<http://www.s-hitsuji.co.jp/> \*ブログ・FBもご覧ください。

ウールやフェルトの上に、羊毛でいろいろな絵を描いてみましょう。フワフワ羊毛のやわらかい表情が素敵です。

《材 料》

- 布（ウール・フェルトなど）
- カラー羊毛

《作り方》

- 布を敷いた上に、薄く広げたカラー羊毛を少しずつ重ねるように描きます。重ねるほどに厚みが出て立体となり陰影が生まれます。



- 指先や手のひらでしっかり押し付けるようにすると、はがれにくくなり、そのまま飾れます。（風が強くと当たるとはがれますので、気を付けてください）。

～「だいすきなウォルドルフ人形」写真館より No.3～  
「ウォルドルフ人形の日」に寄せられたお写真を紹介します。



- 1、クリスマスプレゼントは人形！2年生になった今でも一緒に寝ています。（ゆうたろう さん）
- 2、宿題の音読を、みみちゃんたちと一緒に。（蟹江真理江さん）
- 3、親子で大好きなウォルドルフ人形との出会いに感謝です！（和田晶子さん）

「クリスマスの光」

シュタイナー園は、キリスト教保育の園ではありませんが、クリスマス待つアドヴェントの時期になると、アドヴェントの庭（りんごろうそく）、聖誕劇、ミツロウのろうそく作り、クッキー作りなど、この時期ならではの活動が盛りだくさん。さまざまな活動の中で、子ども達は自然に、クリスマスはマリアとヨセフのもとに赤ちゃんイエスさまがお生まれになった日であることを感じていきます。

日本の街中でもハロウィンのカボチャが消えると同時にクリスマスツリーが登場するようになりました。欧米では「メリークリスマス」と言うかわりに「ハッピーホリデー」と言われ、現代のクリスマスには、キリスト教の祝祭という意味に、冬のお祭りという意味が大きく付け加わってきています。しかしクリスチャンでない人も、クリスマスを楽しみにして、大切な人にプレゼントを用意して、一緒にお祝いしようと思うのには、何か理由があるのではないのでしょうか。

クリスマスは冬至の時期の祝祭です。冬至は、一年の中で一番夜が長く、昼が短い日です。闇が一番多く、光が一番少なくなります。夏至はその反対で、光が最も多いときですが、夏至を境に光は少なくなり、秋分で光と闇は同じ量となり、秋分後は、闇がどんどん増えていきます。冬至はそのターニングポイントで、この日を境に光が増え始めます。これは闇の中の光の誕生ととらえることができます。冬至は光の誕生の日なのです。

聖書には「真の光があって世に来た」と書かれています。マリアから生まれた幼子イエスは、すべての人を照らす「光」であり、その「光」の誕生を祝うのがクリスマスです。「すべての人」とは文字通りすべての人と受け取ってよいと思います。また、光を宿した「マリア」を私たちの「心」と解釈してみると、私たちの「心」に「光」が宿り、それが誕生するのが、クリスマスとも捉えられます。毎年冬が来て冬至を迎えると、私たちの心の中に「光」が生まれるのです。あるいは私たちの心の中に「光」があることを再確認する。クリスマスにはそんな意味もあるのではないのでしょうか。

そして「光」は留まっていられません。私たちの心の中の「光」は、温かい愛の熱を伴って、外へと流れ出ていきます。クリスマスに大切な人にプレゼントをしたり、寄付や献金をしたりするのは、きっとそのあらわれなのだと思います。クリスマスに子どもに届く皆様の愛のこもった手作りのお人形も、「光」の誕生と関係があるのです。

コロナの特別な年のクリスマス、一人一人の心に光の誕生が体験できたら素晴らしいと思います。（ご興味のある方は、「南沢シュタイナー子ども園のアドヴェントとクリスマス」吉良 創著、南沢シュタイナー子ども園刊をどうぞお読みください。）  
2020年11月 吉良 創

プロフィール・吉良 創（きはらはじめ）

1962年生まれ、自由学園卒。ヴァルドルフ幼稚園教員養成ゼミナール（ドイツ、ヴィッテン）修了。滝山しおん保育園園長、南沢シュタイナー子ども園理事、日本シュタイナー幼児教育協会理事、ライアー響会代表。国内外でシュタイナー教育、ライアーに関する講座、講演、コンサート、執筆などを行う。